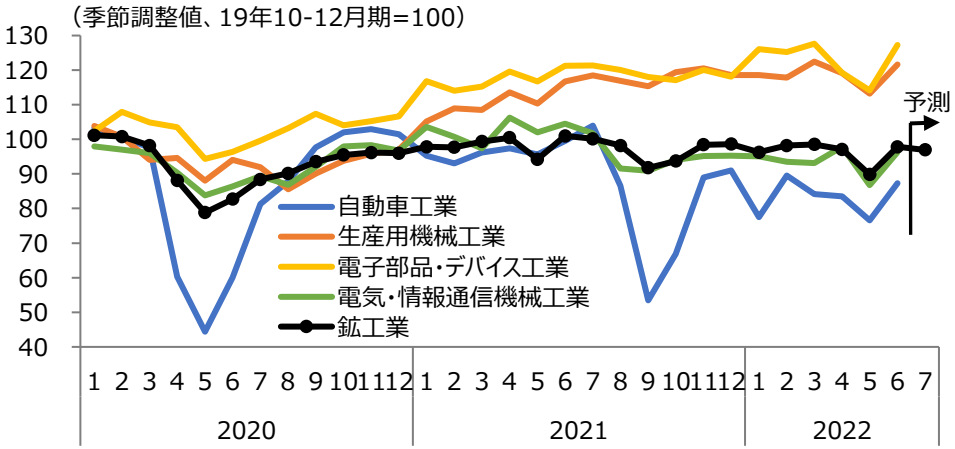
日本

鉱工業指数（2022年6月）

生産は中国からの部品供給再開により大幅回復

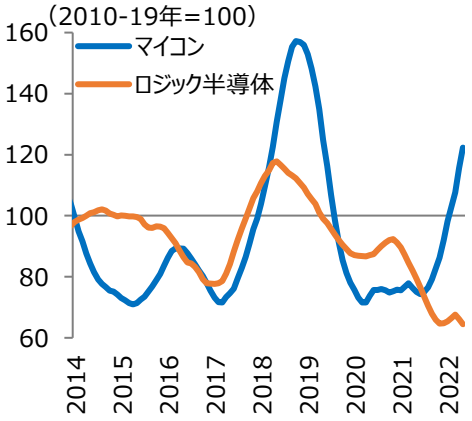
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1　鉱工業生産指数（業種別）

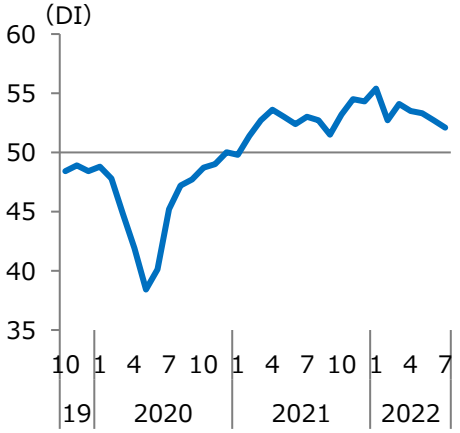


注：予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2　半導体在庫数量



3　日本の製造業PMI



注：12カ月後方移動平均。マイコンは、モス型マイクロコンピュータ(MCU)。ロジック半導体は、モス型標準ロジック。
出所：経済産業省「生産動態統計」

出所：S&P Global「PMI」

評価ポイント

今回の結果

- 6月の鉱工業生産指数（季調値、速報）は、前月比+8.9%と3カ月ぶりに上昇した（図表1）。製造工業生産予測調査基づく予測値（同+4.9%、経済産業省補正済み）を大きく上回り、現行基準で比較可能な13年以降で最大の伸び率となった。
- 業種別では、前月に大きく落ち込んだ自動車工業（同＋14.0%）、電気・情報通信機械工業（同＋11.0%）を筆頭に幅広い業種（全15業種中11業種）が上昇した。中国・上海市のロックダウンが解除され、部品供給が再開されたことが背景にある。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、国内外の新型コロナ感染拡大やサプライチェーンの混乱を受け、一進一退で推移している。製造工業生産予測調査によると、7月の生産は前月比▲0.9%程度（企業の予測値と実績値の平均的ズレを経済産業省が補正した値）と、横ばい圏の動きが想定されている。
- 先行きは、均してみれば増産傾向を見込む。長期化する半導体不足は緩和の兆しがみられ、自動車の生産回復を後押しするだろう。世界的に財需要の増加が一服する中、不足していたマイコンの国内在庫が復元している（図表2）。
- もっとも、増加ペースは緩やかにとどまるとみている。日本の製造業PMIは、中立水準を上回っているものの低下傾向で推移しており、部品不足は依然生産の重石だ（図表3）。大手自動車メーカーは、減産幅を徐々に縮小させているが、7月以降も部品不足による生産調整を続けている。ロジック半導体の在庫復元は遅れており、挽回生産が進むのは23年入り後になるだろう。
- 下振れリスクも大きい。①金融引き締めに伴う米国経済の急失速、②中国のロックダウン再実施、③ロシアからのガス供給途絶による欧州経済悪化、など海外経済の不確実性が高い。また、7月以降国内の新型コロナ感染者数が急増しており、工場労働者の欠勤等により生産が滞る事態にも留意が必要だ。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.